

ニューズレター雪氷北信越

No.49 平成8年5月10日
(社) 日本雪氷学会北信越支部発行

目次

第9回総会、研究発表会・製品発表検討会案内/理事幹事会・顧問評議員会報告/
講演会/研究発表会の案内/プログラム/新刊ニュース/その他

第9回総会および研究発表会・製品発表検討会 6月8日(土)開催

※プログラムは3～5頁です。奮ってご参加下さい。なお、同封の
出欠票および委任状を6月1日までにご投函下さい。

報 告

理事・幹事会/顧問・評議員会 報告

4月24日(水)、長岡技術科学大学建設系会議室において、平成8年度第1回理事・幹事会合同会議が開催された。平成7年度の事業報告・会計報告が審議され承認された。平成8年度役員について、早川支部長の任期が平成7年度までのため、新たに支部長の選任が行われ、支部理事の互選により早川支部長の平成8年度の再任が決った。これにともなう副支部長、幹事長、庶務幹事、会計幹事、編集幹事の新たな案を支部長がつくり支部総会に提出することとなった。平成8年度の事業計画・予算案が審議され承認された。支部賞選定委員会から平成8年度支部賞授賞者案について報告があり、審議の結果、下記の通り承認された。

- 大 沼 賞：北原拓夫(長岡工業高等専門学校)
「雪氷の水力輸送における計測・制御技術の開発」
大 沼 賞：小林俊市(長岡雪氷防災実験研究所)
「雪玉造粒による雪の空気力輸送とその利用技術の開発」
雪氷功労賞：古川征夫((株)アルゴス)
「支部活動に著しく貢献した功績」

6月8日長岡で開催される平成8年度支部総会、研究発表会・製品発表検討会のスケジュールが報告された。このあと引き続き、顧問・評議員会が開催された。

(庶務幹事：納口 記)

季節の話題

鋸山の雪形「川の字」の出現日予想結果

前号のニューズレター(3月15日発行)において、長岡でみられる雪形「川の字」の出現日予想を行いました(予想日：4月30日)。さてその結果や如何に！去る4月30日、長岡市各地で「川の字」の観察を行っているメンバー5人で構成する「川の字出現日判定委員会」(委員長：長岡市立科学博物館、加藤正明氏)の判断が下され、1996年の出現日は4月28日と決定されました。予想日より2日早く出現したわけですが、「川の字」の出現日が最大40日程度も変動することを考慮すれば、良い精度で予想ができた満足しています。

(怪しい雪形予報士：河島 記)

講演会

講演会のお知らせ

演 題：「建築物上の雪荷重」(Snow Loading on Structures)
講 師：マイケル・オルーク教授
(アメリカ合衆国，レンセラー工科大学)
日 時：平成8年6月6日(木) 15:00～17:00
場 所：長岡技術科学大学 機械・建設1号棟4F 機械系会議室
内 容：講師のオルーク教授は、合衆国における吹きだまり研究の第一人者で、合衆国の建築関係の法律に強い影響力を持つアメリカ土木学会(ASCE)の雪荷重委員会のメンバーの一人でもあります。合衆国における建築物の安全設計のための雪荷重の考え方を中心に、倒壊の事例も交えて講演していただく予定となっています。なお、講演の後に懇親会を予定しております。あらかじめ下記にて、出欠をお知らせしていただければ幸いです。たくさんの方の出席をお待ちしております。

問い合わせ：長岡技術科学大学 機械系 上村靖司
TEL. 0258-46-6000 Ext. 7346
FAX. 0258-46-6972
E-mail: kami@nagaokaut.ac.jp

研究発表会

雪に関する研究発表会のお知らせ

主 催：福井雪害対策研究会
後 援：(社)日本雪氷学会北信越支部／福井県雪技術研究会
期 日：平成8年6月28日(金) 15:00～17:00
場 所：福井大学地域共同研究センター
テ ー マ：造園緑化木の雪害対策について

福井県立大学 野田敏秀
蓄熱剤格納による橋面の凍結防止対策
福井県雪対策・建設技術研究所 宮本重信

(他2題)

発表会の後、主催研究会総会と懇親会を行います。
雪に関心ある方のご来席を歓迎します。

連絡担当：福井県雪対策・建設技術研究所 杉森正義
TEL. 0776-35-2412
FAX. 0776-35-2445

ニュース

関東・中部・西日本支部ニュースより

(No. 35 1996. 4. 20発行)

- ・豪雪の宝川試験地から：
農林水産省森林総合研究所 村上茂樹
- ・極夜の小さな町のクリスマス：
総合研究大学院大学 的場澄人
- ・1995年度第3回支部役員会報告
- ・1996年度日本雪氷学会通常総会の開催のお知らせ
- ・雪形ウォッチングのお知らせ
- ・平成7年度ニューズレター発行報告

平成8年度 (社)日本雪氷学会北信越支部
総会、研究発表会・製品発表検討会

日時：平成8年6月8日(土)
場所：長岡技術科学大学

プログラム

◆総会 (13:00～13:45)

◆平成8年度支部賞授賞式 (13:45～14:00)

◆研究発表会・製品発表検討会 I～Ⅷ

会場の御案内

会場は長岡技科大の新しい
講義棟のD講義室(1階)及び
F講義室(3階)です。新講義
棟は構内北端にあります。

於：新講義棟 1階D講義室

<午前部>

☆第1会場(新講義棟 1階D講義室)

・I. 計測・屋根雪 (9:30～10:45)

座長 山口肇(長岡工業高等専門学校)

発表時間は15分
(質疑応答を含む)

1. 吹雪計 SPC-S7の開発

木村忠志・○石丸民之永・加藤務(新潟電機(株))

2. 路面着雪・凍結予知センサー

山田忠幸(山田技研(株))

3. 空調パネルの実用化試験

梅村晃由・○小川隆史(長岡技科大), 柳雄一(柳建築事務所(株))

4. ニューラルネットワークによる屋根雪荷重の推定

○澤井裕大(福井工科大学), 前田博司(福井工大)

5. 混合機による雪の造粒

○小林俊市・納口恭明・河島克久(長岡雪氷防災実験研究所),
西村浩一・石井吉之, 伊藤陽一(北大低温研)

・II. 雪処理 (10:45～12:00)

座長 白樫正高(長岡技術科学大学)

6. トラクタ装着型雪圧縮成形処理機の開発

○大黒正道・小林恭・帖佐直・澤村宣志・佐々木豊(北陸農業試験場)

7. 高速空気流による雪の管内輸送システムの開発とその問題点

山口肇・佐藤和秀・岩田実・○河合真一・丸山剛・中野博信・坂井厚夫・
高野義明(長岡工業高等専門学校)

8. 中型雪押込機の性能

梅村晃由(長岡技科大), ○久納和重(長岡技科大大学院), 村山健一
(長岡工高)

9. 模擬雪を用いた流雪薄の実験

○福嶋祐介・早川典生・新谷武史(長岡技科大)

10. 積雪時の地震対策(住民の意識調査)

○浅木清史(福井工科大学), 前田博司(福井工大)

☆第2会場（新講義棟 3階F講義室）

- ・Ⅲ. 積雪・スキー（9:30～10:45）
座長 上石勲（（株）アルゴス）

11. 1996年積雪による市街地（敦賀）の機能阻害状況
杉森正義（福井県営・建設技術研）

12. 1996寒候期における新潟県上越地方の積雪
○横山宏太郎・井上聡・小南靖弘（北陸農業試験場）

13. データベースでみる日本の雪環境の特徴
石坂雅昭（富山市科学文化センター）

14. 中国天山の雪にカンジキは要らない
○納口恭明（長岡雪氷研），阿部修・佐藤篤司（新庄雪氷研）

15. スキー・ターンの力学
○平野陽一（中央大），多田憲孝（新潟工短大）

- ・Ⅳ. 雪渓・雪形（10:45～12:00）
座長 飯田肇（富山県土木部砂防課）

16. 穂高岳溜沢雪渓の変動（1967-1995）
神田健三（中谷宇吉郎 雪の科学館）

17. 北77°S・白馬大雪渓上に形成された大規模な溝（その1）－構造と形状変化－
○松元高峰（北大低温研），河島克久（長岡雪氷研），和泉薫（新潟大災害研），納口恭明・岩波越（長岡雪氷研），遠藤八十一（森林総研・十日町），加藤正明（長岡市立科学博物館）

18. 北77°S・白馬大雪渓上に形成された大規模な溝（その2）－雨量データ解析－
○河島克久（長岡雪氷研），松元高峰（北大低温研），納口恭明・岩波越（長岡雪氷研），和泉薫（新潟大災害研），遠藤八十一（森林総研・十日町），加藤正明（長岡市立科学博物館）

19. 北77°S・白馬大雪渓上に形成された大規模な溝（その3）
－雪渓上の堆積粒体がつくり出す融雪斜面－
○納口恭明・河島克久・岩波越（長岡雪氷研），松元高峰（北大低温研），和泉薫（新潟大災害研），遠藤八十一（森林総研・十日町），加藤正明（長岡市立科学博物館）

20. 雪形の経時変化と植生
○遠藤八十一・小南裕志・庭野昭二（森林総研・十日町）

< 午後の部 >

☆第1会場（新講義棟 1階D講義室）

- ・特別講演（14:00～15:00）
南極Taylor氷河の質量収支
A. G. Fountain（アメリカ地質調査局）

- ・Ⅴ. 雪崩（15:15～16:00）
座長 小南裕志（森林総合研究所十日町試験地）

21. 1995-96年冬期の東北・北信越地域の雪崩災害
○和泉薫（新潟大災害研），山田稔・納口恭明・河島克久（長岡雪氷研），遠藤八十一（森林総研・十日町）

22. 勝山市横倉・小原の表層雪崩について
○杉森正義・梅田正浩（福井県雪・建設技術研），北川博正（勝山市北谷小校長），伊藤文雄（福井大教育物理）

23. ガゼックスによる人工雪崩の誘発について
○根城寿彦・早川典生（長岡技科大），上石勲（（株）アルゴス）

- ・ VI. 雪氷物理（16:00～17:00）
座長 神田健三（中谷宇吉郎 雪の科学館）

24. 雪結晶の成長と酸性化の機構
○古戸昌子・対馬勝年（富山大学理学部）

25. 積雪の誘電的性質のその場観察（2）
○竹井巖（北陸大），西村寛（MTS），前野紀一（北大低温研）

26. 熱的にみた雪結晶の成長
○対馬勝年・武藤薫（富山大学理学部）

27. 新積雪での平均粒子径の変化
伊藤文雄（福井大教育物理）

☆第2会場（新講義棟 3階F講義室）

- ・ VII. 降雪（15:15～16:00）
座長 石坂雅昭（富山市科学文化センター）

28. 降水の化学特性－1995年度長岡市の例－
佐藤和秀・金子昌弘（長岡高専）

29. 短時間降雪強度の連続測定
田村盛彰（小千谷高校）

30. 降水種判別手法の開発－あられと雪片の判別－
田村盛彰（小千谷高校）

- ・ VIII. 融雪・衛星（16:00～17:00）
座長 竹内由香里（長岡雪氷防災実験研究所）

31. 乱流観測による雪面熱収支特性
○松尾内助（（株）キタック），早川典生・小池俊雄・田殿武雄（長岡技科大）

32. NOAA-AVHRRデータによる積雪相当水量の推定
○井上聡（北陸農試），加藤たみ（（株）エスク三ッ川），横山宏太郎（北陸農試）

33. 衛星による積雪面情報と分布型流出モデルをとおして見た降雪モデル
○陸晏皎・久保貴士・小池俊雄・早川典生（長岡技科大）

34. 超音波積雪深計による融雪量の推定
－積雪の圧縮過程を考慮に入れた融雪量推定モデル－
○小南裕志・遠藤八十一・庭野昭二（森林総研・十日町）

◆懇親会（17:30～19:00）（第3食堂、会費3000円）

※19:37に技大前発長岡駅行き最終バスがあります（長岡駅20:05着）。

『雪崩対策の基礎技術』 (社)日本雪氷学会 1996年4月改訂版
B5判/191頁/定価2,000円(送料込み2,500円)

本書は、「雪崩対策の基礎技術研修会」に使用しているテキストで、本年4月に改訂出版したものである。研修会の講師陣が、降積雪・雪崩の基礎、雪崩対策、雪崩埋没者の救助、救急処置などについて執筆している。雪崩に関する業務に携わる行政関係者、コンサルタントや雪崩で困っているスキー場関係者、雪崩教育に関係している登山者等の方々には是非一読をお勧めする。また、今冬発生した雪崩災害の新聞記事もトピックスとして載っているのも、雪氷研究者にも役立つものと思われる。

連絡注文先：(社)日本雪氷学会事務局

TEL. 03-3261-2339

FAX. 03-3262-1923

(上石幹事 記)

『最新雪崩学入門』

北海道雪崩事故防止研究会 編
山と溪谷社/A5判/157頁/定価1,854円

山岳雪崩の教科書が出た。内容は、山岳雪崩遭難の実態調査/雪を科学する/雪崩の発生メカニズム/雪崩の危険判別法/行動判断/雪崩対策の装備/セルフレスキュー/遭難者発見後の対応/救助隊による本格的捜索/雪崩対策の現状/雪崩犠牲者をなくすために/全国山岳雪崩発生地点地図の12章から成る。

著者の秋田谷英次・福沢卓也・成瀬廉二各氏は北海道大学低温科学研究所を中心にした雪崩科学をビジュアルに紹介し、登山者・スキーヤー・スノーボーダーへの雪崩教育を推進する阿部幹雄・樋口和生両氏が実用的な生存救出法を紹介している。自然雪崩か誘発雪崩かの別を整理した全国雪崩地図も見やすく、登山・スキーに関心を持つ人だけでなく、広く雪崩防災関係者におすすめしたい好著である。

(新田理事 記)

『自然のフォーカス 山楽百花』

小荒井 実 著

歴史春秋出版社／A5判／206頁／定価2,000円

日本屈指の雪どころ飯豊連峰の四季を長年にわたって歩きつづけた著者は、通いつめる者だけにかいま見せる話題性の多い山・雪・湿原・木・花の姿をフォーカスし、60余のトピックスに分けて紹介している。量感あふれる山・雪・樹木の写真、それらを風土・民俗・歴史・サイエンスで味付けした解説で山々への愛と楽しみを吐露している。

雪形・残雪マニアは、寝牛、夫婦牛、馬の首、御鏡雪、鉤雪、蛇雪、オトミ雪などをこの本で確かめることが出来る。雪崩マニアには、偏東積雪、グライドと草棒、アバランチ・シュート、雪崩道の花などの的確な描写を楽しまれることをおすすめする。

（新田理事 記）

『空の色と光の図鑑』

斎藤文一（文） 武田康男（写真）

草思社／A5判／184頁／定価2,900円

この本は、日本気象学会会員で高校教師の武田氏が撮った美しい写真と、超高層物理が専門で宮沢賢治に関する著作もある斎藤氏の味わい深い文の組み合わせによって、空の色と光に関するさまざまな現象を紹介し、科学的に説明している。扱っている現象は、虹、蜃気楼、氷晶による光学現象（ハロ等）から雷やオーロラまであり、豊富である。

私は、氷晶による光学現象は高緯度地方に特有な現象だと思っていたが、この本には関東地方で撮影した写真が沢山載っていて意外だった。そして、何と、この本を読んだ翌朝（1月19日9時～10時頃、加賀市で）、私の頭上に虹のような美しい色彩の弧（環天頂アーク）があるではないか！ 巻層雲がうっすらと太陽を覆い、ハロと幻日も見えた。一連の現象は、巻層雲をつくる氷晶に太陽光が屈折してできたものである。現象の不思議さ・面白さだけでなく、出会いの不思議さからも、私には愛着の1冊になった。

（神田幹事 記）

お知らせ

1996年度日本雪氷学会通常総会のお知らせ

開催日：平成8年5月22日（水）13：00～

開催場所：飯田橋会館

（東京都千代田区富士見2-10-36）

TEL. 03-3263-7711

総会終了後、雪氷フォーラムが開催されます。

「1996年豪雪による広域雪氷災害の実態」

（文部省科研 突発災害調査（大雪調査））

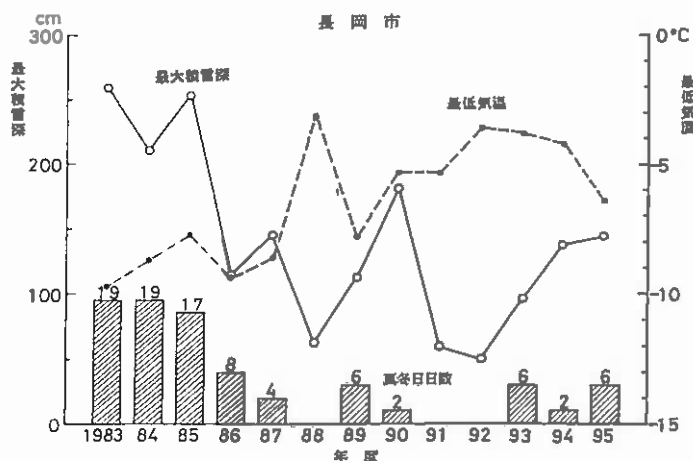
1) 都市災害について

新潟大学積雪地域災害研究センター 小林 俊一

2) 雪崩災害について

新潟大学積雪地域災害研究センター 和泉 薫

今年の冬はどんな冬？（長岡市の場合）



* データは、最大積雪深は長岡雪氷防災実験研究所調べ。最低気温および真冬日数は新潟日報のお天気欄より求めた。

（小林幹事 記）

その他

退任の御挨拶

本号をもちまして、3年間にわたって務めてまいりました編集担当幹事を交代することになりました。

在任期間中は、不行き届きの点や独り善がりの点など多々ありましたたでしょうが、平に御容赦下さい。

今後新幹事のもとで、フレッシュな紙面が登場することを御期待致しますとともに、会員の皆様の更なる御支援・御鞭撻を心からお願い致しますして退任の御挨拶とさせていただきます。

どうも有難うございました。

※なお、次号までの間ニューズレターに関するお問い合わせは

引き続き、

長岡雪氷防災実験研究所

小林俊市

TEL. 0258-35-7522

FAX. 0258-35-0020

までお願い致します。